

愛知・豊田市

公明党愛知県本部の伊藤渉代表代行(前衆



伊藤氏(右端)ら 移乗ケアアシストの実演を観察する

院議員、次期衆院選挙 候補補選比例東海ブロック)と党愛知県議団(鬼頭英一団長)およ

び豊田市の議員(小島政直幹事長)はこのほ

介護・医療で「医工連携」

伊藤氏、党議団らが視察

人との共生めざす

ロボット技術の現状探る

くものであり、政策的

同社は「パートナーロボット」という概念を提唱。これは人と接触した際、ケガをする危険があることから柵で隔離していた産業用ロボットのイメージを

してきた安定性の高い歩行制御技術とセンサ技術を導入した四つの「パートナーロボット」を開発。2013年以降の実用化に向け、実証を開始している。

同社は先ごろ、介護・医療分野でのロボット技術の活用を想定し、これまで自動車製造などで培った高速・高精度のモーター制御技術や、二足歩行ロボット開発の分野で蓄積

たものの中には現場で使えない場合がある点を解消した」という。伊藤氏ら一行は、こうした説明を受けた後、ひざ付近に取り付け、下肢まひなどにより歩行が困難な人を助ける「自立歩行アシス

するロボットのことで。同社は先ごろ、介護・医療分野でのロボット技術の活用を想定し、これまで自動車製造などで培った高速・高精度のモーター制御技術や、二足歩行ロボット開発の分野で蓄積

トナーロボット部長は、今回の開発が「医工連携」である点を強調。藤田保健衛生大学(豊田市)やトヨタ記念病院(豊田市)と連

「移乗ケアアシスト」などの実演を観察した。伊藤氏は、介護・医療分野での活用が期待される最先端技術の開

発現場を見て回り、二本の新しい分野を開くものであり、政策的

鬼頭団長らは「ものづくりの全国的な集積地である本県で、党議団として最先端技術への育成支援を推進していきたい」と述べた。